

# ある日、突然 妻と子ども

# 停調流交會面

# 捨てられる

調停（別居する親が子どもとの面会を求めて裁判所立ち会いの下、話し合い合意を目指すこと）の申請数は3・5倍に増加。00年に3092件だったのが13年度には1万762件に上り、比率、数とも男性が急増しているという。この数字は男性側に「別れても子どもに会いたい、養育に関わりたい」という意識が高まっていることを示すが、離婚問題に詳しい能登豊和弁護士はその背景をこう言う。

一伴侣としてのふさわしさと親としてのふさわしさを混同している女性が多いんです。離婚＝親子の別れと。いう考えが世間にまだまだ根強いことも会わせない問題の背景にあります。

個々の理由ですが、まず暴力が原因で会わせたくないというケースがあげられます。会わせたときには子どもが虐待されたり、後になつて同居親や子どもが暴力を振るわれたり。暴力は振るわなくとも、同居親の家

などにやつてきてつつきまつたり。そういういた恐れあるために別居しているを遠ざけるわけです。  
また離れて暮らす時間長かつたり、精神的圧迫暴力を受けていたりするとから子どもが別居して親と会うのを嫌がるケスがあります」

かく、子どもを愛し、しつかりと育てていたゆえに相手に警戒されて会えなくななるというのは悲劇というしかない。

「うちの団体に相談に来る方は子煩惱な方が多いです。よ。だからこそ警戒され会えないんですけどね」と宗像さんはため息をつく。

30代技術者・Bさんは子どもと同居している妻の実家を訪ね、直談判を試みた。彼は転職を機に収入が半減。妻の親が介入し別離。以来子どもと会えなくなつた。

「乳児だった子どもを連れ去られたのは約7年前です。しばらくして妻の実家について義父母に自分が悪かつたことを謝り続けましたが、妻子には会わせてもらえませんでした。『せめて子どもだけでも会わせて欲しない』と毎月手紙を送つたりもしたんですが、一切返事はありませんでした」

その後、Bさんは子どもの通う小学校へ出向き再会を果たす。いないはずの父親に会えたことで、子ども

**別れても男親も  
子育てをしたい**

31 2014.9.26

然  
が消え、立ち尽くす…

は3.5倍にも

夫たち

注いでいたと思っていた。  
だから家庭が壊れることを  
Aさんは予想していなかつ  
た。

「夜、仕事から帰ると家の  
明かりが消えていました。  
変だなと思いながら中に入  
ると荷物はそのまま。なの  
に誰もいない。いつもなら妻  
と4歳児と生後9カ月の  
乳児が待っているはずなん  
ですが、どこにも見当たり  
ませんでした」

Aさんは慌てた。すぐに  
妻の携帯に電話をかけてみ  
るが呼び出し音が耳元で鳴  
り響くばかり。妻の実家に

失意のどん底に落とされたAさんだつたが、仕事に打ち込んで平静を保つようにした。するとある日、弁護士事務所から封書が届いた。妻子が家から消えてから2カ月後のことだ。

「離婚したいと書いてありました。私はすぐに電話しました。私がすぐ妻の住所を開きました。しかし教えてもらえませんでした。9カ月近く経ちましたが、妻子がどこにいるのかわかりませ

「家に帰つたら妻と子がいなかつた、出張から帰るといなかつた……。そうした話を時折耳にします。捜し歩いた揚げ句、警察に行つたら保護命令を理由に『住所は教えられない』と言われたりするわけです」

そもそも夫婦はなぜ別れるのか。別表に離婚理由を示してみた。離婚件数は2002年の28万9,836組をピークに12年には23万5,406組と、ここ十数年で減少している。その一方で同時期に行われた面会交流

離婚後、親子の交流を訴える人たちの街頭活動(右)。最近は別れても子育てに参加したいという男親が増えたという

危機を迎えるながらも、子はかすかいと何とか続いた結婚生活がある日、突然、終わりを告げる妻が予告もなく子どもを連れて家からいなくなり茫然自失の状態で取り残される夫が最近、増えている。面会交流調停を起こし、わが子と会おうとしても、さらに法の壁が立ちはだかるという。

ちなのに、あれから一度も  
会えていないんです」  
Aさんはこう言い、肩を  
落とした。

2014-0-26 30

